

左京三条一坊二坪の調査（平城第650次）

奈良文化財研究所では、奈良県からの受託研究で、2022年9月26日から、朱雀門の南東にあたる平城京左京三条一坊二坪の発掘調査をおこないました。調査区は坪の北半に南北25m、東西19m（北区）、坪の南半に南北約10m、東西約21m（南区）の2カ所を設定しました。調査面積は合計約685m²です。

この場所では、奈良県の地域デザイン推進局平城宮跡事業推進室が「平城宮跡歴史公園朱雀大路東側地区（歴史体験学習館）整備計画」（2020年）にもとづき、歴史体験学習館を建設する計画を進めています。この坪は朱雀大路に西辺を接し、周辺では史跡平城京朱雀大路跡の整備に関わる発掘調査や、国土交通省の平城宮いざない館の建設にともなう事前の発掘調査がおこなわれてきました。これらの調査により、坪の西辺と北辺が築地塀で囲われていたことがわかっていますが、坪の中心部分について、まとまった面積の発掘調査をおこなうのは今回が初めてです。

調査の結果、南区では小型の掘立柱建物を検出しました。規模は東西3間、南北3間以上です。柱間寸法は、東西が約1.35m（4.5尺）、南北が約1.65m（5.5尺）。建物内部にも柱穴がある総柱建物で、床

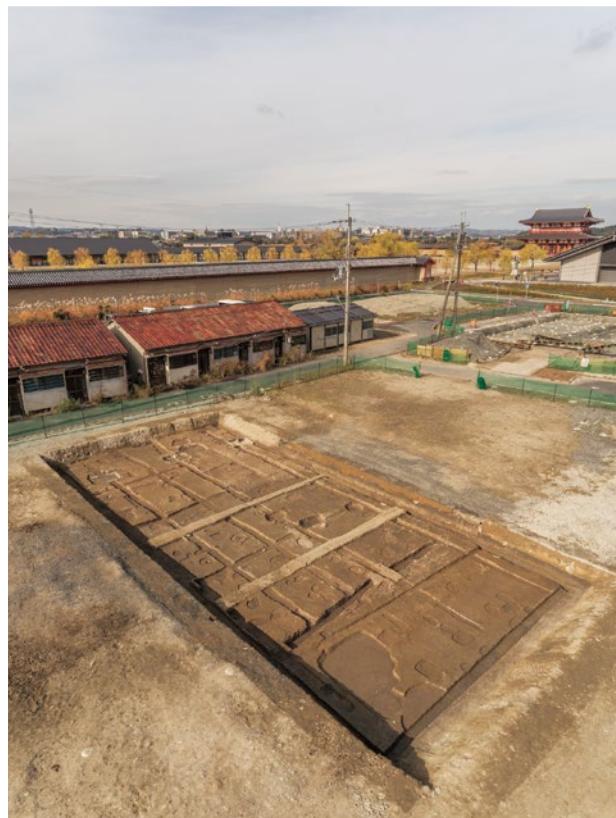
張りの建物の可能性も考えられます。これらの柱穴は掘方の平面形状が円形で、大きさも平城宮跡内の発掘調査でみつかる柱穴に比べて小さいものでした。この掘立柱建物の周りには、建物を囲う小穴を検出しました。これらは、建物の建築時や解体時の足場穴、あるいは柵等の可能性が考えられます。ほかにも、小規模な柱穴を多数みつけており、南区の中央付近にも数棟、建物の配置を復元することができそうです。今回の調査成果により、坪の東南部には大規模な建物が展開しない可能性が高まりました。

2023年1月20日には南区の現地見学会を開催し、317名の方々に調査成果をご覧いただきました。当日は寒い中、現地に足をお運びいただきありがとうございました。

1月末には南区の埋め戻しを完了しました。現在は報告書の作成に向けた遺物の整理作業を進めています。

また北区では掘立柱建物や掘立柱塀の柱穴を検出しました。2022年度の調査は終了しましたが、2023年度以降、北区の周囲を拡張し、この坪の北半中央部分の様相をあきらかにするために、調査を再開する予定です。今後の調査にご期待ください。

（都城発掘調査部 浦 蓉子）



南区全景と復元された朱雀門と築地塀（南東から）



掘立柱建物（北から）



柱の抜取穴から出土した土器（東から）